

# 令和4年度第1階宝達志水町文化財保護審議会 議事録

日 時：令和4年5月31日（火） 午後3時00分～午後4時00分  
場 所：宝達志水町埋蔵文化財センター 2階 研修室

## 出席者

委 員：出倉委員、村上委員、山岸委員、秋田委員、末森委員  
事務局：細江教育長、宮本課長、竹森主事、麦居主事

## 次 第

- 1 開 会
- 2 教育長あいさつ
- 3 会長あいさつ
- 4 令和4年度文化財保護事業計画について
- 5 令和4年度能登文化財保護連絡協議会について
- 6 意見交換
- 7 閉会あいさつ（副会長）

## 議事録

（令和4年度文化財保護事業計画について）

出 倉：まず、このことに関して、日頃思っておられること、何かお気づきのこと、または要望的なもの、ご意見等はございませんか。

村 上：今度の能文連の総会の時に末森城跡は見学にいきますか。

事務局：今回は、時間が少ないのと人数も多いので、喜多家と埋蔵文化財センター、それとあと1か所を考えていますが、末森城に登るとなると時間が足りなくなると思います。末森城跡に関しては、来年、国民文化祭で「いざ末森城」が統一テーマとなっているので、いずれにせよ何かしらのかたちで取り上げようと考えています。統一テーマになっているのに、末森城跡に登ると古びた看板があるだけではみすぼらしいので、今年度中には看板をきれいにしなければとは考えています。

村 上：これは要望ですが、以前崖から捨てられた本丸の門の礎石を二の丸の少し下まで運んだと思います。本丸まで戻すのは難しいと思いますが、せ

めて解説板か何かを置くことはできないですか。

事務局：来年の国民文化祭に合わせて設置したいと予算要求してみてもよいとは思いますが。

出 倉：今ほどの件は、来年度末森城をテーマに大会が開かれるということを考えますと、案内看板の新調、礎石の問題、きちんと上の方に上げておいた方がよいと思います。

秋 田：末森城の大手門はどんなものだったんですか。

村 上：明治になって前田育徳会が末森合戦を顕彰するために伝承を敷衍して描かれたものがありますが、実物はありません。ただ、礎石を抜いた跡はあります。ですから、大手門のかたちは分かりませんが、本丸の曲輪（くるわ：平坦面のこと）の角にあることは分かります。先日テレビで鎌倉の切り通しの特集がありました。溝の中をS字に歩かせることは戦術的にも鎌倉時代から存在していたそうです。末森城跡にも二の丸に近づくとところにS字の溝があり、数少ない見所です。説明の看板を置くなら、これも含めていただければと思います。

秋 田：末森山の防御の推定のかたちというのは分かっていますか。砦とか空堀とか。

村 上：末森城跡の報告書は30年前に出ています。推定は出来ませんが、発掘は若宮と本丸の礎石確認しかしていません。崩れやすい山で、下手に発掘すると遺跡破壊になってしまうので。

事務局：昭和30年代につけられた道がありますが、やはり雨風で崩れていています。県の事業で竹を切ったところも、崩れやすいので崩れています。なので、木を切る際も、下手に切ると、地面が崩れてしまうので、考えて切る必要があります。

村 上：昭和30年代につけられた道は、曲輪を構わず通しています。それを考慮した上で城の姿を予測しなければならない。

事務局：パンフレットの図は、普通の地形図に城の縄張り図を当てはめたもので

す。三の丸あたりまでが新しくつけられた道になります。幸か不幸か、見学者はこの道しか通らないので、他の曲輪は手つかずのままです。保存状態は自然に崩れない限りは良好かと思えます。ちどり園から登る道、搦手門へいたる道というのは、20年前にはすでに人一人通れるかどうかの道幅になっていたと聞いています。人はほとんど通りませんが、自然に崩れていつている状態にあります。

村 上：押水の時代におこなった調査なので、搦手門側についてはあまり調査をしていない。北の方の曲輪にもいろいろなものがあつたとは思いますが、詳しくは調査していません。発掘したのは若宮丸と本丸の礎石調査をただけです。

事務局：それと虎口(こぐち)の確認調査があります。昭和30年頃は文化財に指定されていませんでしたし、当時「戦国時代の遺跡は新しいもの」という認識もありました。民有地でもありますので山仕事のためもありました。この道は、本丸にあつた末森の大松を兼六園に運ぶためにつけられたものと聞いています。

村 上：樋の川の上流はどのあたりですか。先ほども説明させていただきましたように、旧押水の方では大海川、前田川、杓田川、大坪川、宝達川、相見川の6本あります。志雄地区は樋の川と子浦川があります。それで、樋の川(ひのかわ)の「樋」は「とい」、末森城主は土肥(とい)氏ですので、土肥氏と樋の川に何かしらのつながりがあると前から思っています。この地域の伝承調査は早いうちにと思っています。

出 倉：末森城跡に関するいくつかの提案がありました。が、がんばって設置の方よろしくお願いたします。さて、会議前に山岸委員から意見が出ておりましたが、この場に出しておきたいと思えます。原の浄蓮寺のすぐ近くに通称「バケザクラ」と呼ばれる巨木があるみたいです。これについて、町指定にできないものかということです。また、同じく原地区のキリシマツヅジについても考慮していただけないかという意見でした。

事務局：植物の指定については、巨木である、樹齢が経っている、などの基準があります。また、指定にあたっては、所有者が管理することができるかどうか、というのも大事です。現在指定されている植物につきましては、所有者がしっかり管理されているものです。指定した以上は、行政とし

でも指導または助言をしていかなければならないのですが、大前提として所有者がきちんと管理できるかというのも大事だと思います。なので、所有者の理解を得ることも考えてかなければならないと思います。

秋 田：奥能登のキリシマツツジの保護管理というのは、相当な管理をしていると聞いています。

事務局：奥能登にはキリシマツツジの協会・組織があって、自分たちで保護していこうという意識が強いところです。

山 岸：原の「バケザクラ」に関しては、周りの木を切らないと、やがてなくなってしまいます。

秋 田：巨木の要件を満たしているかどうか、樹齢がどれくらいかなど、桜の専門家に話を聞いてみてはいかがでしょうか。話を聞いて、価値のあるものであれば、山岸委員のおっしゃるように周りの木を切って、日の当たりをよくして、維持を図っていくのがよいのではないのでしょうか。

出 倉：それでは、話に出たようなかたちで、指定の基準や今後の手続きなど、いろんなことに関わってくるのが分かりましたので、それを踏まえた上で、事務局の方で検討していただけないかというのが、いまの私たちの意見ですので、配慮をよろしく願いいたします。

(令和4年度能登文化財保護連絡協議会について)

出 倉：能登文化財保護連絡協議会について、自然保護部会も含めて案が示されました。みなさん、いかがでしょうか。

村 上：川畑さんのお話に関係した遺物等を(埋蔵文化財センターに)並べた方が格好がつくかと思いますが。

事務局：宝達志水町を含む能登の古代(奈良から平安時代)のお話なるとおっしゃっていました。それに関係した遺物を展示できた方がよいとは思いますが。

村 上：見学先は喜多家ではなく、岡部家ではだめなのですか。

事務局：平成24年度の宝達志水町大会で岡部家を見学しているので、次は喜多家を設定しましたが、岡部家でも問題はないと思います。

村 上：埋蔵文化財センターも見学することになっているので、収蔵品を見てもらうときに岡部家文書も見てもらえばよいのではないのでしょうか。川畑さんのお話を聞いた後に関係した遺物があって、岡部家を見ていただいた後にその文書がある、という方がよいのではないかと思います。

出 倉：『能登の文化財』に掲載された史料もこのときに展示してみるのも面白いかもかもしれません。みなさん読んで来られていますから。

村 上：限られた時間の中ですから、できるだけ関連付けた方がよいかと思います。

秋 田：前は岡部家だったのですか。

事務局：前は岡部家と末森城跡で、天候が悪化したため末森城跡には登らず、岡部家を見学して解散したと聞いています。岡部家を見学先にするかどうかについては検討したいと思います。

出 倉：岡部家にしてはどうかという、審議会の気持ちを汲んで、検討いただければと思います

末 森：9月27日の現地調査の件ですが、アサギマダラの説明を橘さんにしていただきたいと思います。マーキングもするんですか。

事務局：マーキングについては時間が少ないので難しいと考えています。実演ではなくて、マーキングの道具を見せて、こうするんだよという説明になるかと思っています。

末 森：現地で説明を受けるのであれば、アサギマダラが飛来する時期であれば、現地にアサギマダラが飛んでいるものと思われれます。実際にいるなら、捕るところを見てもらって、はじめてマーキングの説明になるような気がします。みんなに捕ってもらうことはできなくても、代表者がマー

キングするかたちでもよい気がします。

山 岸：前回のときは橘さんも事前に捕まえて用意していたと思います。

出 倉：そうした活動を地区としてやっているわけですから、その紹介も兼ねたよい例になる気がします。

秋 田：宝達山頂公園の駐車場に車を止めて歩いて登ることになりますか。

事務局：駐車場に車を止めて歩いて行きます。歩いて10分くらいです。参加される方々は植物や自然の研究者です。羽咋市と志賀町の大会の時には、わりと自由に話しながら歩いていましたので、歩きでも問題はないかと思います。

出 倉：時間も迫ってきておりますので、これくらいにしておきたいと思います。これからも細かいことがいろいろと出てくるかと思いますが、次回の審議会で調節していただければと思いますので、よろしく願います。

(意見交換)

出 倉：意見交換と言うことでお願いいたします。

山 岸：文化財にはならないと思いますが、菅原集落の「菅原こんねる」という柿についてです。これは菅原地区だけのものだと思います。見て歩いただけで30本くらいありました。年々駐車場の邪魔になったりして切られてなくなっていっています。「こんねる」とも「こんねり」とも言っているようです。紋平柿については農林水産課が石碑を立てたそうですが、「菅原こんねる」についても看板などがあってもよい気がします。

出 倉：「菅原こんねる」は有名な話です。

山 岸：1本くらいは残してほしい。

出 倉：農林水産課と少し話を調整してみてもいかがでしょうか。

山 岸：菅原の固有名詞のついた柿ですからね。菅原で聞いたところ段々少なくなっていると聞きました。

出 倉：これに看板を立てたらというご意見です。文化財係としてすべきなのか、農林水産課との調整となるのか、そのあたりは事務局の方でご検討よろしく願います。

教育長：紋平柿は渋柿で、金山などで柱の木の防腐剤として柿渋を塗ることがあったといいます。金沢では金箔の金を叩くときに柿渋を塗った紙を使っています。遺伝子的には四国の柿との関係があるという話も聞いています。DNAを調べると面白いかもしれません。

村 上：歴史的に言えば、金箔とかを作るときに普通の和紙ではなく柿渋を塗ったものを使うので、産業として加賀藩が渋柿の紋平柿から塗料として柿渋をとることを奨励したことは十分考えられることです。

出 倉：柿に関連して話ができました。さて、審議会で集まるたびに町文化財を視察しようという話が出ていました。そのあたりはいかがでしょうか。

末 森：審議会と同じ日にすると負担がかかるので、別途の日を年に何回か設定して、計画していただけるのであれば、実際に現地に行ってみたいと思います。

村 上：事務局の人数がこれだけしかいないのであまり負担はかけられないと思います。

事務局：審議会と一緒にすると時間もかかりますし、はやくに集まるのもご予定などあるでしょうから難しいと思います。別の日にするのはよいかなとは思いますが。

末 森：あれもこれもとはいいません。ここは是非というのがあればピックアップしていただければと思います。

出 倉：事務局の方の仕事もありますので、そのあたりを考慮されながら、時間のとれる範囲で計画を立てていただければと思います。

村 上：事務局の方々の仕事を考えますと、埋蔵文化財センターの収蔵庫に資料があると思いますが、これらを整理する暇もなくなる。資料を整理して、その成果を見せていただくというかたちにするのも一つの手かと思えます。現地を見に行くのもよいとは思いますが、それは我々だけでいけばよいと思えます。

末 森：例えば、今日は30分早めに話をはじめて、自分たちの思っていることを話したり、村上委員の説明を受けたりしました。その30分の中で、宝達志水町の文化財の内これは是非見ておいた方がよいとか、審議員の中で場所を決めて、いつ頃なら集まれるか話し合っ、事前に連絡が必要な所は事務局から連絡していただいて、回ってみるのは、フットワークが軽くてよいと思えます。

出 倉：では、次の会までにお一人1つ以上候補地をピックアップしていただき、コースできるだけ我々で決める。事前の連絡などの交渉事は事務局の方をお願いをするかたちで、できるだけ負担をかけないかたちで我々で回る、というのでどうでしょうか。

事務局：次回の会議も今回のように会議の30分前に集まっておいただくかたちにしたいと思えます。

出 倉：それでは、意見交換の中で大きい宿題がそれぞれ出ましたので、心に留めて置いていただければと思えます。時間も来ましたのでこれくらいにしておきたいと思えます。